

A16b

I.I. によるしし座流星群の輻射点の観測

伊部敦子、内田良始、鹿児島孝、柏原倫子、川裾秀之、小西卓也、近藤恵美、蕎麦田朋子、花房英一郎、伏見賢一、真鍋恵、山尾郁美(徳大総科)、上野智士、桶谷嘉一、清水達也、田辺恭彦、谷永真一、中村齋、南部匡史、野原麻美、真鍋憲信(徳大工)、有吉加恵、熊谷理恵、林麻衣子、森本幸恵(徳大薬)、山本かおり(徳大医)

2001年のしし座流星群の輻射点の構造は、9公転トレイルと4公転トレイルによる2つの構造があることが示唆されている。そこで、徳島大学天文部アストロラブはI.I.(浜松ホトニクス製ナイトビューア)+CANON NewFD85mm F1.8を用いて、しし座流星群の輻射点付近を撮影した。観測は、2001年11月18/19日に、徳島県那賀郡那賀川町的那賀川町科学センター(E134.41.05 N33.56.44)で行った。I.I.をつけたビデオカメラは、自動ガイドの赤道儀に搭載して輻射点を撮影し続けた。撮影した画像から、流星の飛跡を記録し、輻射点の構造、時間変化(9公転トレイルと4公転トレイルの差)について調べた。

他に、眼視観測、電波観測の結果についてもポスターで報告する。